

## 令和元年度 第2回学校評議員会（報告）

期 日 令和2年2月14日（金） 14:00～16:00  
場 所 前沢明峰支援学校 応接室  
参加者 学校評議員3名 本校職員16名

### ◇質疑・助言（○は、意見・所見等）

- 評議員 ○：サービス事業所等との情報交換会について、家庭・学校・事業所と連携しながら行っていくためにも、引き続き来年度も実施してほしい。
- Q：食物アレルギーの児童生徒は、どれくらいいるのか。また、どのような対応をしているか。
- 養護教諭 A：10人くらいである。アレルギーのある児童・生徒の保護者は、医療機関で給食指導表に記入してもらい、学校に提出することになっている。アナフィラキシーショックなどの事故は起きていない。
- 評議員 ○：P22進路の資料について。「ひだまり水沢・きらり」の進路区分は、「生活介護」。
- 評議員 Q：P11「定期健康診断の結果」をみると肥満が23%とあるが、前沢明峰は全国や県の割合からみてどれくらいか。
- 養護教諭 A：全国に比べ奥州市は肥満の割合が高い。また、支援学校はさらに高い。
- 評議員 ○：前沢地区の児童・生徒は、肥満の割合がもっと高いのではないか。スクールバスや自家用車での通学が多く、徒歩通学の子供が少なくなっていることが原因かもしれない。
- Q：P27の学校評価アンケート項目14、15について。子供達は、「先生からの意地悪」についてどのようにとらえているのか。

副校長 A : 「意地悪がある」と記入した児童・生徒と、その児童・生徒が在籍するクラス全員から、副校長が聞き取りをした。先生からの意地悪とかではなく、「注意された」「しかられた」ことを意地悪ととらえているようだ。

評議員 Q : 多忙感について、業務の片寄りが挙げられている。仕事にやりがいを持てれば多忙を感じないこともある。気持ちの持ちようでかなり異なるが、実際はどうなのか。

○ : 漢検の取組は素晴らしい。準2級合格は凄い。

○ : エアコンについて。当施設では、今年から設置し使用した。大変快適である。明峰も来年は使用できる。安心した。

副校長 A : 働き方改革について。会計業務の軽減をはかるため、令和2年度から、納入金を一括払いとすることとした。また、会議の終了時間をあらかじめ決めることで、長時間にならないよう時間の管理をしている。会議に向けて準備を入念にするようにもなった。効果大である。

評議員 ○ : 3年間評議員をした。会議の内容や雰囲気、だいぶよい方向に変わった。改善されている。学校評議員会の資料とホームページがリンクして整合がとれている。

Q : SNSの利用の仕方などについては、入学する際に保護者とよく話し合ってもらいたい。どうなっているのか。

Q : ホームページは、保護者がパスワードで入っていけるようにし、いつでも学校関連資料を閲覧できるとよいのではないかと。

Q : 先生方の多忙感は、改善されてきたと思うが、先生方一人ひとり、目標はどう設定しているのか。個々の先生の能力を伸ばすことが大切。また、上に立つ者は、先生方個人個人を評価してあげてはどうか。

生徒指導主事 A : スマートフォンのフィルタリングについては、入学説明会で保護者に説明している。

- 情報部長 A：ホームページは、各学部の行事担当者が作成し、情報部ホームページ担当者がアップしている。パスワードの設定は様々な制約があり難しい。
- 副校長 A：保護者への連絡は、「すぐメール」というシステムを使い、速やかに情報を流すようにしている。
- 副校長 A：職員は「勤務状況確認シート」を作成し、校長や副校長と面談をしながら、自分が設定した「目標」への達成状況を確認している。
- 評議員 Q：インフルエンザ等のウイルス対策は、どのようにしているのか。局面を考えておいた方がよい。
- 副校長 A：手洗い、うがいを丁寧に行うよう促している。
- 寮務主任 ○：来年度は、男女合わせて26名の入舎予定である。地域の草取りやゴミ拾い等に出かける予定。来年度も見守りや励ましをお願いしたい。
- 実践研究部 ○：主体的な学びを主なテーマに、研究に取り組んでいる。生徒の主体性を考えた場合、まずは学校を好きになることが大切である。安心感、有用感から、自信につなげていく。主体性を引き出すには、周囲からの愛情や温かな見守りが大切だと感じる。
- 事務長 ○：職員の健康状況は、健康56%、要観察29%、医療受診が必要15%。長期病休は5名。長期病休の先生は復帰している。ほとんどが怪我や病気であった。公務災害は2件。
- 評議員 Q：年次休暇について、実際は5日以上取れているのか。時間休暇の合算ではなく、1日単位で5日間取得できているか。
- 副校長 A：長期休業中にまとめてとっている場合が多い。
- 評議員 Q：先生方の休憩時間はあるのか。

- 中学部主事 A : 昼の休憩を取ることは難しい。食事介助や家庭への連絡帳記入があるため、教室で昼食を取りながら児童・生徒と過ごしている先生がほとんどである。
- 評議員 ○ : 「働き方改革アクションプラン」の『お手伝い文化』という共通の目標は、素晴らしい。楽しい学校だということが伝わり、大変雰囲気が良い。
- 副校長 ○ : 明峰では同窓会の集まりへの参加率が高い。卒業生は明峰を大切に思っている。先輩の先生方の努力の賜物のである。
- 総務主任 ○ : 同窓会の集まりでは、出席者が多く、席が足りないくらいである。転勤した職員も出席する。
- 評議員 ○ : 明峰の校長先生が、小学校等の運動会に出席することはとても素晴らしい。
- 評議員 ○ : 先生方のつながりは、他の業界とは“別なつながり”があるのではないか。子供が通っていた学校の先生から、今も集まろうとの連絡がくる。  
○ : 先生方は、自分の体を大切にしなければいけない。精神も丈夫でないといけない。  
○ : 管理職が、常に先生方の目標や達成状況の様子が分かる仕組みがあればもっとよいのではないか。評価されれば、先生方がやる気になる。先生方が、期待をもてる職場を目指してはどうか。また、「子ども達に教えることが楽しい」と感じることでできる職場であれば、先生方にとっても楽しいはず。
- 副校長 ○ : 前沢明峰支援学校は、「地域」に近い学校だという印象である。買い物・交流・作業学習など。地域の方から学ぶことが多い学校評議員会だと思うので、今後もよろしく願いしたい。